

10月全校集会 校長講話

10月も半分以上が過ぎました。一体いつになったら涼しくなるのだろうと、残暑を恨み、涼しくなることを待ち望んだのが、遠い過去のように思われるほど一気に涼しく、いやむしろ寒くなりましたね。こんな季節の変わり目には、体調を崩す人がよく見られます。みなさんも健康には十分、注意をして過ごしましょう。

さて、今日は短く2つの話をします。1つ目として、私は本校のホームページに自分の思いをよく書いて、アップしています。最近では、「読書のすすめ」というコラムを書いています。みなさんが本を読んでいる姿は、毎日の朝読書の様子を見て知っています。どのクラスも静かによく読書に励んでいて、素晴らしいと思っています。読書は心を豊かにするとともに、頭をよくしてくれくれます。学校の勉強や部活動も大切ですが、みなさんには、朝読書の時間のみならず、昼休みや家に帰ってからのちょっとした時間に読書をしてもらいたいと思っています。一日のうちのちょっとした時間ですが、このちょっとした短い時間でも、それが1ヶ月、3ヶ月、半年、一年と積み重ねたらとても長い時間となります。人生の成功者の多くの方々は、こういった、「人よりちょっと多くの努力」をしたり、「ちょっとした時間の使い方の工夫」をして、それが積み重なり、大きな成果となった人がたくさんいます。読書の秋、みなさんも大いに読書をしてください。

2つ目の話をします。朝の登校の様子を見てみると、元気な挨拶のできない生徒がまだまだたくさんいます。ロータリーの掲示板には、こんなことが書いてあります。「あいさつは心と心の握手」「自分からあいさつできる人になろう」と。私は毎朝、川辺小学校の交差点でみなさんが登校してくるのを見守っていますが、6月に学校が始まった頃に比べると、随分あいさつができるようになってきました。顔も名前もすぐに浮かびます。しかし、いつまでたっても元気な挨拶のできない生徒がいます。こちらの生徒の顔も名前も浮かびます。

勉強ができることは、とても大切なことです。運動ができることも、とても貴重な自慢できる個性ですね。学級委員や専門委員会、学級の中の係で仕事をがんばることも立派です。しかし、それらよりもずっとずっと大切で、将来必要とされる大切な力は、気持ちのよい、元気な挨拶ができることや、地域の方や学校の先生、先輩方に礼儀をわきまえたあいさつや言葉遣いができることなのです。こういったことができない者は、社会人として信用されません。うまく仕事をやっていくこともできません。そういったことができるようになるために、今、学校で日々、教室や部活動であいさつの指導をされているのです。半年経ってもできないような者は、飯中生として恥ずかしい。心当たりのある生徒も多いはずですが、これからの、みなさんの気持ちの良いあいさつに期待します。

令和2年10月19日 春日部市立飯沼中学校長